

## 平成 27 年度第 3 回大阪府立泉北高等学校学校協議会

1 日時：平成 28 年 1 月 27 日（水）15：45～17:00

2 会場：本校会議室

3 出席者 <委員>

山下 勝己氏（大阪府立大学工学域長）、泉川 敬介氏（堺市立若松台中学校校長）、中村 俊一氏（立志館ゼミナール館長）、池内 博一氏（大阪電気通信大学 専任講師）、尾崎 和美氏（泉北高校後援会 会長）

4 挨拶 校長

- ・ 本日は学校教育自己診断結果に基づいて、本校の学校経営の評価及び平成 28 年度学校経営計画に対するご意見とご助言をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

5 事務局からの報告

①今年度の学校経営計画の目標達成状況及び来年度学校経営計画

- ・「1 時間以上」家庭学習する生徒の割合が目標の 36% に達することができなかった。
- ・生徒による授業アンケートのうち「興味関心」と「知識技能」に関する満足度が目標に達することができなかった。
- ・SSH において外部のコンテスト等で多くの賞をいただき、目標を上回った。
- ・センター試験の出願者の人数が目標に達しなかった。学年として無理に受験を勧めなかったことが理由だと考えている。
- ・学校で配布されたプリントが保護者の手元に届かないという意見があり、本校のホームページからパスワード等を入力することでダウンロードできるように整備していきたい。
- ・重篤な状況で支援が必要な生徒はなかったが、今後も支援会議を中心に支援を行なっていく。
- ・来年度の経営計画に、これまでの本校での取り組みを生かした海外への直接進学あるいはスーパーグローバルハイスクールを促進させるグローバルキャリア課を従来の進路指導に加えることで新しい時代のキャリア教育として加えたい。また、確かな学力への取り組みの進捗状況が思わしくないことから、「置き勉」指導を導入することで家庭学習の時間を伸ばせるようにしたい。それに加えて、基本的な生活態度を伸ばさせる指導にも重点を置き、家庭学習時間を伸ばせるようにしたい。
- ・遅刻の数が前年と比べて多くなっており、学年で指導方法について検討している。
- ・進路実績の数値目標について、見直す予定である。

②学校自己診断アンケート（生徒・保護者・教職員）結果について（教頭より）

- ・クラブ活動と勉強の両立では生徒・保護者とも自信がなかったりと、十分に満足していない結果となった。

- ・PTA 活動に積極的に参加していただいている保護者の皆様にも参加できる工夫が必要だと思われる。
- ・在校生がどのように過ごしているかということのを来年度はホームページでもっと発信していきたい。
- ・昨年と比較して保護者アンケートからの要望が少なくなった。特に授業に対する要望が今年度がほぼ皆無であったことが一つの原因とみられる。

#### ③第2回授業アンケート結果について（教頭より）

- ・全体的にポイントが上昇しており、第1回で低かったものが改善されている一方で上昇している中でも低くなっているものもあった。
- ・初任者を中心に研究授業を行い、先進事例を見学した上でアクティブラーニングを取り入れた授業を研究した。

#### ④SSH の取り組みについて（SSH 研究主担）

- ・大阪府学生化学賞で最優秀賞、堺市長賞、学校賞を受賞することができた。
- ・大阪サイエンスデイに参加し、「科学の甲子園」では上位に入賞できなかったが、オーストラリア海外研修やボルネオ研修の成果発表を行った。
- ・泉北こども科学教室を実施して、200名の参加が得られた。
- ・3期目のSSHの指定に向けて、申請内容を校内で検討していきたい。

#### ⑤その他

- ・帰国性枠で5名が希望調査によると現在受験を希望している。日本人学校からの受験者と合わせて6、7名が受験すると見込んでいる。その他の入試では1.7倍程度の倍率を見込んでいる。

## 6 協議

- ・目標の立て方について

（委員）どのように目標の数値を決定しているか。

→（学校）昨年度の成果を上回るように設定している。

- ・自学自習について

（委員）自学自習時間に塾の時間は含めているのか、いないのか。

→（学校）アンケート記入の際に、塾の時間は入れないという指導をしているが、徹底できず、塾での勉強時間も含めている可能性がある。

- ・SSH の取り組みについて

（委員）SSH の取り組みが何か生徒の進路にどのように役に立っているか。

→（学校）なんとなく総合科学科に入学した生徒でも理系の学習にめざめ、理系の大学に進学していった生徒がこれまで多くいた。また、卒業生の中でも所属大学の研究発表会で他大学の教授から褒めていただくこともあった。そして、安易に指定校を選ぶのではなく、自分が大学で勉強したいことにこだわって進学していく生徒の様子からは課題研究の成果があったと思われる。

（委員）小中学生の科学実験を予定を上回って実施していただき、大変多くの生徒が参加し興味が増していることにお礼を述べたい。

・SGHの取り組みについて

(委員) SGHの取り組みはどのようなになっているか。

→ (学校) 今年度は1年次から課題研究を始める「グローバル基礎」という授業を中心にやってきた。2月17日の成果発表会に向けて生徒の課題研究発表を準備している。本日も桃山学院大学からプレゼンテーションを指導していただく講師の方が来ている。生徒がよい成果を残せるようにしたい。

(委員) SGH等で長期の海外研修では、学校の単位はどうなっているのか。

→ (学校) 長期の留学は1年間のものであり、1年間という期間の留学を持って進級判定を行っている。必ずしもSGHと関連があるものではないが、10名以上の長期留学者が出るような指導を行っていききたい。

・学校アンケートについて

(委員) 勉強についていけず苦痛だという生徒が45.6%いる。国際文化科と総合科学科ではどちらが多いのか。補習の有無や自習室の整備などはあるか。

→ (学校) 補習は長期休暇などは進路指導部を中心に企画して生徒を募集している。どちらかといえば、進学講習というような内容になっている。自習室はパーティションを用いて15席ほど用意しており、18時まで利用できるようにしている。95%が3年性で、文化祭の後までが一番利用者が多い。自教室で放課後に自習している生徒もいる。

(学校) 「いじめ」の調査は中学校では行っているのか。またその結果はどうか。

→ (学校) 学期に1回アンケートを取っているが各学期で「いじめられている」あるいは「いじめを見たことがある」という回答がみられる。市教委にも報告をあげている。

(委員) アンケート項目が多すぎて、経年変化が見にくいのではないかと。生徒と教員のアンケート項目を同じにして、その乖離の理由を分析して対策を立てていく方がいいか。

→ (学校) 分析をさらに細かくするようにしたい。原因を幾つかピックアップして早急に問題を洗い出し、次年度の対応に入れていきたい。

(委員) 遅刻も1限の授業担当が誰かということも影響している。明らかに授業力に関係していると思われる。

(委員) 年齢が高くなると授業アンケートのポイントが落ちてくる意味は、年齢が経るとルーティンになりがちで勉強しなくなることが影響している。自分がワクワクしながら教えられるかどうか指標になる。

(委員) 大学でも教員業績評価を行っているが、教員の中にも変化を避けて、意識改革がなかなか進まないこともある。生徒に勉強についていけず苦痛と答えているものには対応する必要がある。

(委員) LINEなどのSNSにかけている時間が増え、急激に学習時間が減っている。成績がよくなる生徒は自分で自分を律することができる。生活習慣を勝ち取る生徒がこれから生き残っていく生徒である。

→ (学校) 自分の意志のもとで生活を送れる自立心を作れるようにしたい。持ち込み禁止

にしているところがほとんどで、高等学校でも原則として持ち込み禁止にしていることが多い。本校ではマナーを守って使用するというにしている。

(委員) 単に本を持ち帰らせるのではなく、この一冊は持って帰って必ずこれを勉強するというアンカリングを仕込むことが大切である。いかに SNS に割く時間が無駄であるかを理解させる必要がある。ルールだけではなく、「なぜそうなるか」ということを発信して自分たちのライフスタイルを確立させることが大切である。

→ (学校) アンカリングの定着を実践すれば、学習時間によい影響があり、SNS や遅刻の問題にもよい影響があると考えられる。しっかり取り組んでいきたい。